

# 令和2年度留萌地区の研究活動

研究部・留萌地区道小研修部担当 留萌市立港北小学校  
校長 秋葉 良之

## 1. はじめに

留萌管内小中学校長会は、1市5町1村の公立小中学校に所属する27名の会員で組織している。過疎化・少子化に伴う学校数の減少により、全道において最も小さな地区校長会となっているが、会員相互のつながりは緊密であり、小規模組織の機動性や各会員の研修意欲の高さといった留萌管内の強みを生かした研究・研修活動を推進している。

今年度は、組織部主管の地区経営研究会と研究部主管の管内校長会教育研究協議会を同日開催とするなど今般のコロナ禍においても、感染防止に努めながら、校長会としての研究の歩みを停滞させることなく、留萌教育のさらなる質的向上を目指し、提言発表や研究協議等を通してよりよい学校経営の在り方について研鑽に努めている。



◇9月24日 管内校長会教育研究協議会◇

## 2. 研究計画

### (1) 研究主題と今年度の重点テーマ

新しい時代を創造し、豊かに生きるための確かな力を育む小中学校教育の推進  
～ 社会に開かれた教育課程の実現を図る校長の在り方 ～

<テーマ1> 育成を目指す資質・能力の明確化とその実現を目指す学校の創意工夫・活性化  
<テーマ2> 学校教育の充実・改善を図る「カリキュラム・マネジメント」の推進・実現

### (2) 研究推進の重点

- ① 新学習指導要領の基本理念は、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を「社会に開かれた教育課程」によって着実に育成することである。そのために、校長として「社会に開かれた教育課程」をどう捉え、どのように学校現場で実践するのかを検証し、校長個々の職能向上を図る。
- ② 本年度の研究協議会は、研究主題に基づく3か年継続研究の2年次目の研究内容について、研究発表等を基に実践交流し、校長の在り方について研修を深めるとともに、今後の研究の見通しを確かなものにする。研究推進については、各市町村校長会と連携を図りながら研究・研修活動を充実させ、その成果を管内校長会の財産として積み上げていく。
- ③ 令和2年度道小オホーツク・北見大会における提言発表に向け、プロジェクト委員会の活動を充実させ、研究推進に努める。
- ④ 研究集録「和心一統」第51号を発刊し、研究の成果と校長会の足跡を記録に残す。
- ⑤ 道小・道中研究部、各市町村研究部及び関係機関との連携の強化に努める。
- ⑥ 留萌管内研究団体連絡協議会の会長・事務局長として、各種研究会の連絡調整に努める。

### 3. 研究活動の概要

(1) 第 54 回留萌地区教育経営研究会

○期 日 令和 2 年 9 月 28 日 (月)

○会 場 羽幌町中央公民館

○内 容 i) 情報交流 「学校における働き方改革の推進と校長のリーダーシップ」

説明：田中 幸治 (遠別町立遠別中学校)

ii) 情勢報告及び質疑応答

松村隆志 (道小会計理事)・田邊芳明 (道小幹事)・井村 信 (道中幹事)

(2) 第 68 回留萌管内小中学校長会教育研究協議会 ※地区教育経営研究会と同日開催

○内 容 i) 趣旨説明 明田 豊 (苫前町立苫前中学校)

ii) 道小提言発表 秋葉 良之 (留萌市立港北小学校)

iii) 研究発表 「社会に開かれた教育課程の実現を図る校長の在り方」

熊倉 一弘 (初山別村立初山別中学校)

iv) 講評・助言 留萌教育局義務教育指導監 西村 聡 様

(3) 第 63 回北海道小学校長会教育研究大会オホーツク・北見大会への参加

○期 日 令和 2 年 9 月 紙上交流にて実施

○第 8 分科会「これからの学校運営を担うリーダーの育成と校長の在り方」

<趣旨説明・まとめ> 留萌市立留萌小学校 前田 雄 (道小理事)

<提言発表> 「管内の組織力を生かした人材育成と校長のリーダーシップ」

留萌市立港北小学校 秋葉 良之

○参加者 管内より 14 名の会員が意見・質問を提出した。

(4) プロジェクト委員会

道小オホーツク・北見大会第 8 分科会「リーダー育成」の提言発表に向けて、前年度から 5 回にわたり会議を重ね、発表資料を取りまとめた。また、来年度の第 64 回道小石狩・千歳大会でも第 8 分科会において提言発表を担当することになっており、新たなメンバーで委員会を立ち上げ、準備を進めているところである。

(5) 学校経営を語る会

○期 日 令和 2 年 7 月 22 日 (水)

○会 場 留萌市立留萌小学校

今年度 3 名の採用校長に対し、校長会の活動の中核とも言える研修・研究活動の重要性や組織体制について説明・協議を行ったほか、1 学期の学校経営を振り返り、学校改善の方向性や教職員との関わり方等、校長のリーダーシップについて理解を深めた。

(6) 研究集録『和心一統』第 51 号の発行

(7) 全連小各種委員会調査への協力

### 4. おわりに

コロナ禍の今年度は、活動の大きな柱である研究協議会を例年とは違う形で開催することとなった。そのため、研究部の提言に加え、当日の研究協議を補完するため、全会員に対し今年度の重点テーマ 1・2 に係る自校の取組や課題をレポートにまとめてもらい、研究部がそれらを集約し、各校へ還流することとした。27 人の実践から改めて感じたのは、経営ビジョンをしっかりと共有することの重要性である。ここを出発点とし、自校の教育は自分たちで創っていくということを、管理職はもとより、教職員も子どもも保護者もそして地域もみんなで共有し、実現していくことが大事であり、校長はそこに注力していかなければならないことを再認識した。今後も組織一丸となって、管内教育の発展・充実に資する研究・研修活動を積み上げていきたいと考えている。